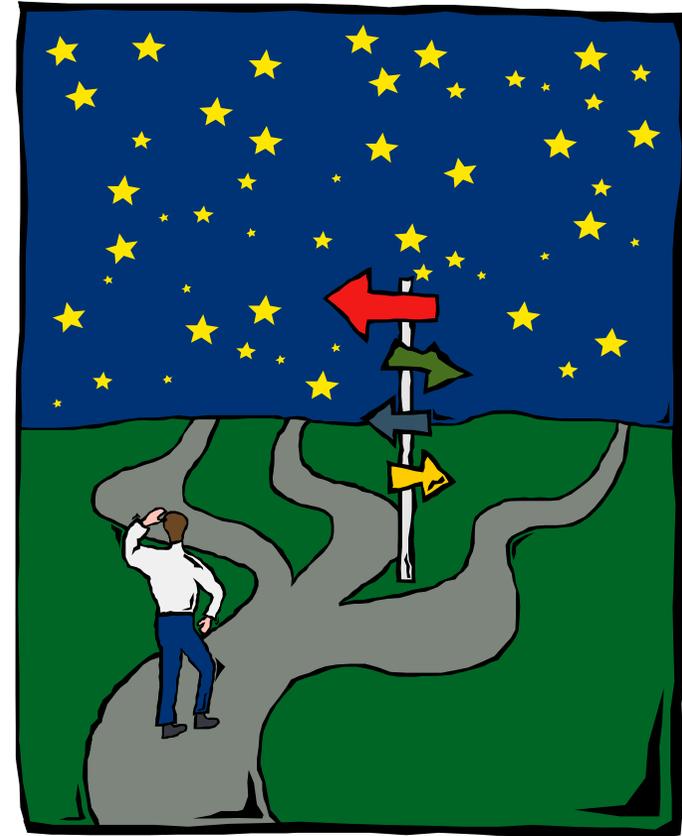


がん地域連携クリティカルパス 研究事業紹介

国際医療福祉大学三田病院 副院長
国際医療福祉総合研究所長
国際医療福祉大学大学院 教授
(株)医療福祉経営審査機構CEO
武藤正樹

目次

- パート1
 - がん対策基本法とがん地域連携クリティカルパス
- パート2
 - 谷水班の紹介
- パート3
 - 東京都がん診療連携協議会
- パート4
 - がん連携コーディネーター
 - 谷水班オープンカンファレンスのお知らせ



パート1
がん対策基本法と
がん地域連携クリティカルパス

がん基本対策法と がん地域連携パス

がん対策基本法

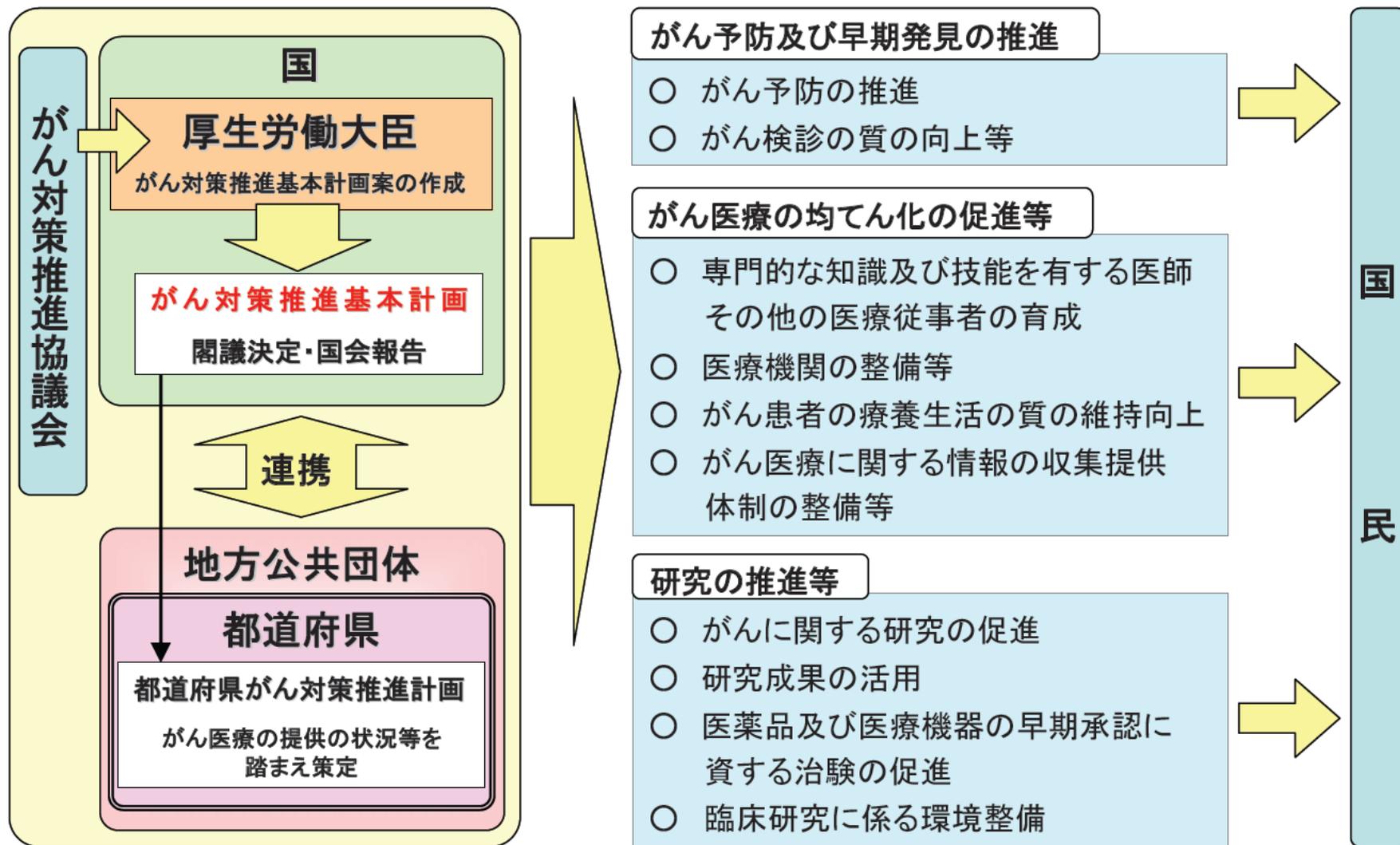
- がん対策基本法
 - 2006年6月成立
 - がん対策のため、国、自治体の責務を明確にして、厚労省にがん対策推進協議会を設置することを定めた法律
 - 当初、与党自民党と野党民主党の間で調整が 手間取り成立が危ぶまれていた
 - 山本孝史議員の自らのがんを告白して行った質問により与野党一致して法案が成立した
 - 1971年米国のキャンサーアクト成立(ニクソン政権)



山本孝史民主党参議院議員
58歳で胸腺がんのため亡くなる

がん対策基本法

がん対策を総合的かつ計画的に推進



がん対策推進基本計画

- 「がん対策推進基本計画」

- 2007年6月閣議決定

- 10年以内にごん死亡率20%減少

- 5年以内にごん検診受診率50%以上を目指す

- 5年以内にすべてのごん診療連携拠点病院で

5大がん(胃、大腸、肺、乳、肝がん)の
地域連携クリティカルパスを整備する

がん診療連携拠点病院制度 47都道府県（351カ所）※H20年2月現在

厚生労働省

協力・支援

都道府県

国立がんセンター



がん対策情報センター



< 拠点病院の役割 >

- 専門的ながん医療の提供等
- 地域のがん医療連携体制の構築
- 情報提供、相談支援の実施

研修

地域がん診療連携拠点病院
相談支援センター

地域連携パス

情報
提供

症例
相談

地域の医療機関
(かかりつけ医、在宅療養支援センター等)

都道府県がん診療連携拠点病院
相談支援センター

地域がん診療連携拠点病院
相談支援センター

診療支援

研修

地域連携パス

診療
支援

研修

地域連携パス

情報
提供

パート2 谷水班の紹介

厚生労働科学研究

全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパスモデルの開発

(H20-がん臨床-一般-002)

全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携 クリティカルパスモデルの開発 (H20-がん臨床-一般-002)

研究者氏名

谷水正人(研究代表者)

池垣淳一

河村進

佐藤靖郎

住友正幸

田城孝雄

藤也寸志

梨本篤

奈良林至

林昇甫

武藤正樹

望月泉

所属

四国がんセンター

兵庫県立がんセンター

四国がんセンター

済生会若草病院

徳島県立中央病院

順天堂大学医学部付属病院

九州がんセンター

新潟県立がんセンター

埼玉医科大学国際医療センター

大阪市立豊中病院

国際福祉大学

岩手県立中央病院

班長協力者

愛媛県がん診療連携協議会メンバー

池谷俊郎(班長協力者)

池田文広(班長協力者)

船田千秋(班長協力者)

新海哲(班長協力者)

若尾文彦(班長協力者)

前橋赤十字病院

前橋赤十字病院

四国がんセンター

四国がんセンター

国立がんセンター

5大がんの地域連携クリティカルパス 研究班としての定義づけ

がん診療連携拠点病院と地域の医療機関等が作成する①診療役割分担表、②共同診療計画表及び③患者用診療計画表から構成されるがん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。

がん医療の質と安全を保証しかつ均てん化に資する地域医療連携のツールであり、地域の医療連携ネットワークの構築、稼働が前提となる。

地域連携クリティカルパスの作成指針

- 診療ガイドラインに沿って作成する
- 医療機関の機能と役割分担を明記する
- 診断、治療、外来、緩和ケア、在宅、看取りまで
- 抛-病-診-看-在-薬-連携を包含する
- 共同診療計画を各疾患の治療法ごとに作成する
- 連携の意志がある地域の全医療機関が使えるもの
- 連携を説明し同意を得る
- 緊急時対応の取り決めに明記する
- 紙のひな型を提示する。将来的には電子化を見据える
- 連携医療機関と定期的に協議する場を設ける

谷水班として作成すべき4点セット

- ①医療機関の機能・役割分担表
- ②共同診療計画表（連携パス）
- ③私のカルテ
- ④医療連携のポスター

①医療機関の機能・役割分担表の方針

- 医療機関の機能は「医療計画の見直し等に関する検討会」(座長:黒川清)の提案(*)をベースとする。
- 施設の機能・役割を一つに限定するものではないが、利用者の側から機能・役割がみえることが重要である。
- 何でもできます(施設内完結)の主張は排除する。
- 施設機能を類型化しても差(施設間、地域間)は大きい疾患、ステージごとに区分点が微妙に異なる。

* <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/07/s0711-7.html>

がんの医療体制

専門的ながん診療

- 手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療の実施
 - 初期段階からの緩和ケア、緩和ケアチームによる専門的な緩和ケア
 - 身体症状、精神心理的問題の対応を含めた全人的な緩和ケア
- 等
- ※ さらに、がん診療連携拠点病院としては
院内がん登録、相談支援体制、地域連携支援 等

○○病院(がん診療連携拠点病院)

紹介・転院・退院時の連携

経過観察・合併症併発・再発時の連携

標準的ながん診療

- 精密検査や確定診断等の実施
- 診療ガイドラインに準じた診療
- 初期段階からの緩和ケア
- 専門治療後のフォローアップ
- 疼痛等身体症状の緩和、精神心理的問題の対応

□□病院、◆◆診療所

在宅療養支援

- 生活の場での療養の支援
 - 緩和ケアの実施
- 等

△△クリニック

在宅療養支援

発見

予防

- がん発症リスク低減
- 検診受診率の向上

在宅等での生活

緩和ケア

がん診療

時間の流れ

医療機能

がん診療の機能分担1

機能	専門的ながん診療	かかりつけ医	緩和ケア	居宅
診断	確定診断、精密診断(ステージ診断)、再発時の診断	初期診断、再発時の診断、精査の必要性の判断		
検査	精密(画像、血液)検査、経過観察のための(血液、画像)検査	スクリーニング検査、経過観察のための検査	経過観察のための検査	
治療	縮小手術、内視鏡手術、定型手術、拡大手術、化学療法、術後補助化学療法、術前化学療法、放射線療法、臨床試験、症状緩和治療	術後症状コントロール、専門施設と連携した化学療法、術後補助化学療法の継続、症状緩和治療	症状緩和治療(疼痛、食思不振、倦怠感、呼吸困難等)	担当医による症状コントロール、症状緩和治療の継続
経過観察、対応、ケア	定期観察、かかりつけ医と連携した副作用・合併症の対応	日常の指導・管理、専門施設と連携した副作用・合併症の対応、レスパイト入院、ショートステイ	ホスピスケア、デイホスピス、レスパイト入院	療養の場の提供、デイケア、ショートステイ、レスパイト入院

がん診療の機能分担1

機能	専門的ながん診療	かかりつけ医
診断	確定診断、精密診断(ステージ診断)、再発時の診断	初期診断、再発時の診断、精査の必要性の判断
検査	精密(画像、血液)検査、経過観察のための(血液、画像)検査	スクリーニング検査、経過観察のための検査
治療	縮小手術、内視鏡手術、定型手術、拡大手術、化学療法、術後補助化学療法、術前化学療法、放射線療法、臨床試験、症状緩和治療	術後症状コントロール、専門施設と連携した化学療法、術後補助化学療法の継続、症状緩和治療

がん診療の機能分担2

機能	調剤薬局	訪問看護	居宅介護支援
診断			
検査			
治療		担当医の指示にもとづく症状緩和のサポート	
経過観察、対応、ケア	服薬指導、コンプライアンス、副作用のチェック、医療機関への連絡、相談	日常の指導・管理、訪問看護、通所介護、医療関係者・患者本人・家族との連携対応	生活療養支援、介護保険対応（生活療養環境の調整、整備）、医療関係者・患者本人・家族との連絡・調整

②共同診療計画表

胃癌・大腸癌Stagel術後長期連携パス(医療者用) 様

病院主治医 (電話:)

診療所名: 主治医 (電話:)

項目	診療所における日常診療							
	入院	病院外来 6ヵ月後	病院外来 1年後	病院外来 1年半後	病院外来 2年後	病院外来 3年後	病院外来 4年後	病院外来 5年後
達成目標	/	/	/	/	/	/	/	/
連携、連絡	再発等の場合、積浜医療センターに連絡							
教育・指導	□患者様用パス説明							
検査・測定	PS	<input type="checkbox"/>						
	血圧	<input type="checkbox"/>						
	体温	<input type="checkbox"/>						
	体重	<input type="checkbox"/>						
	身長	<input type="checkbox"/>						
	心電図	<input type="checkbox"/>						
	採血	<input type="checkbox"/>						
	腫瘍マーカー	<input type="checkbox"/>						
	採尿	<input type="checkbox"/>						
	排便	<input type="checkbox"/>						
	腹部X線	<input type="checkbox"/>						
	腹部超音波	<input type="checkbox"/>						
	内視鏡	<input type="checkbox"/>						
	CT	<input type="checkbox"/>						
	MR	<input type="checkbox"/>						

医療者用のパス
術後パスであれば最低限必要な診察や検査、化学療法パスであれば投与計画(間隔など)、標準的な診療計画を提示する

る

共同診療計画表作成の方針

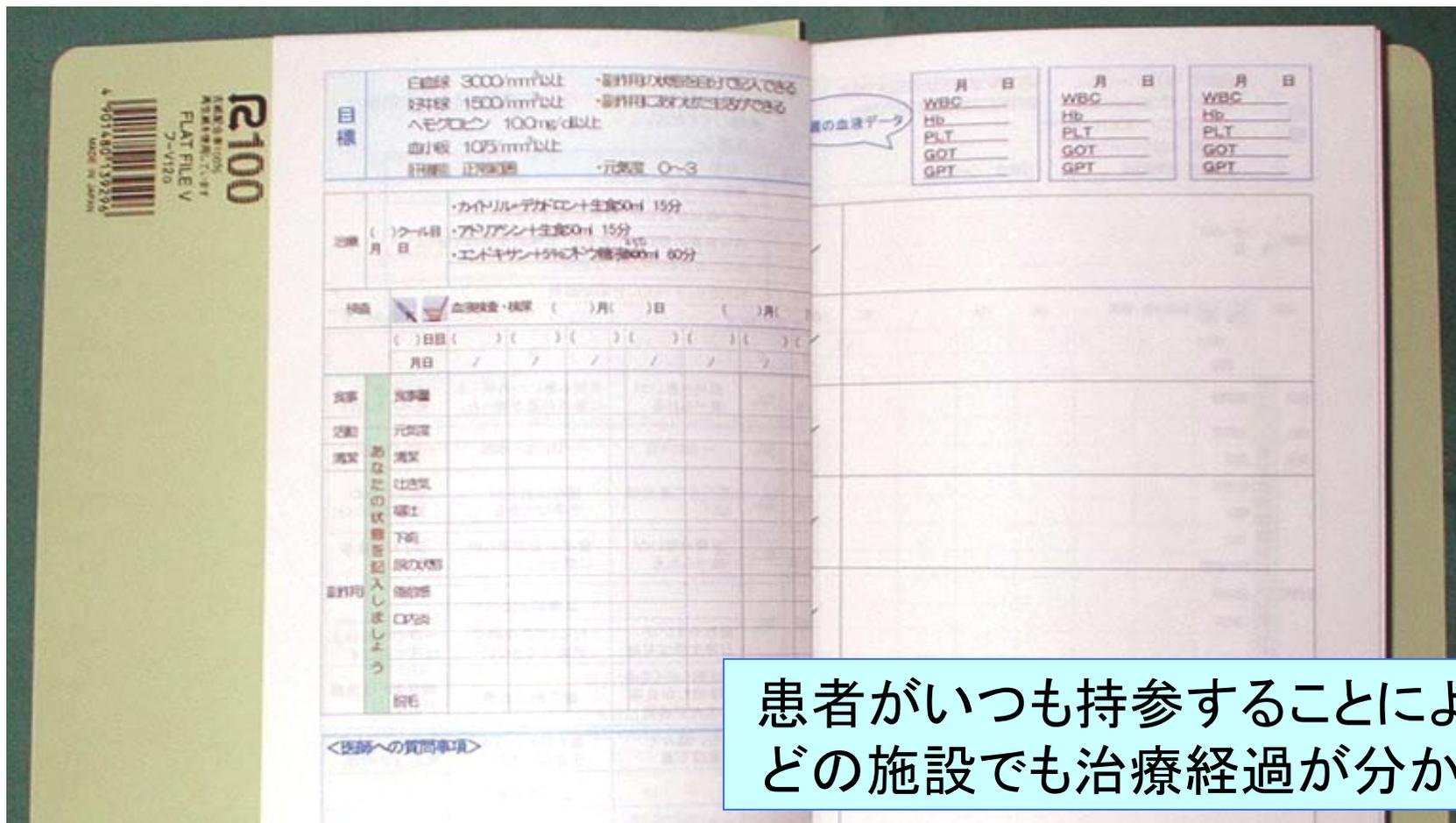
- 汎用性を意識したひな型を作成する。
 - オリジナリティを尊重しつつ、好先進例を生かす。
 - 標準的治療、診療ガイドラインという観点からのチェック。
 - ひな型の形式を固定するのではなく、要件、項目を決定する。
- 作成するもの
 - オーバービューの共同診療計画表：医療者用、患者用
 - 共同診療計画表に医療機関(と担当者)を記入する。
 - 医療者用シート、患者用シート、自己チェックシート
- 専門的ながん診療を行う医療機関で押さえるポイントと間隔、かかりつけ医等で押さえるポイントと間隔を示す。
- 精査、対応(紹介、移動)が必要と判断されるチェックポイント(タイミング)を示す。
- 多職種チーム活動の視点を入れる(薬剤管理(薬剤師の視点)、看護・療養管理(看護師の視点)等)。

地域連携パス・セット

- 医療者用

- 地域連携クリティカルパスの説明書、同意書
- 診療情報提供書
- 決定した連携医療機関一覧
- 共同診療計画表(連携パス)
- 医療者用チェックシート
- 運用マニュアル

③私のカルテ(患者日誌)



患者がいつも持参することにより
どの施設でも治療経過が分かる

セルフマネージメント用パスを連携に利用

私のカルテ作成の方針

- 共有する情報
 - 病歴情報、診療情報提供書、訪問看護管理表をわかりやすく記載したもの
 - インフォームドコンセント(連携の必要性、メリット等を説明)の用紙
 - 検査情報、画像診断情報、服薬指導、栄養管理指導
 - 自己管理データ記録表
 - 情報伝達用の記入用紙
- 支援ツール 患者用支援ツール
 - 服薬スケジュール、副作用説明
 - セルフアセスメントツール(患者用シート、自己チェックシート)
 - コスト説明、高額医療申請ツール
- サイズは統一する
 - 4疾患5事業のパスを見据え、サイズを統一したい(A4?)。
 - 様々な支援ツールにA5等のサイズが混じるのは制限しない
 - おくすり手帳 サイズ・項目について薬剤師会と相談が必要

私のカルテ

- 地域連携パスの説明書・同意書
- 決定した連携先医療機関の一覧
- 知っておきたい私の診療情報
- 患者用連携パス
- 自己チェックシート
- おくすり手帳、副作用の説明書

④医療連携ポスター

♡♡♡♡ **安心と信頼を支える医療の連携** ♡♡♡♡

がん診療連携拠点病院と地域医療機関は連携してあなたの療養を支えます

私のカルテを持ちましょう



連携ポスター作成の方針

患者、一般の人の理解を促すための啓発活動

- 医療機関外来等に連携ポスター等の掲示
- 丁寧な説明、きめ細かな相談対応
- パンフレット、私のカルテの準備
- 地域での一般者向け講演会

パート3

東京都がん診療連携協議会

東京都がん診療連携協議会（08年3月）

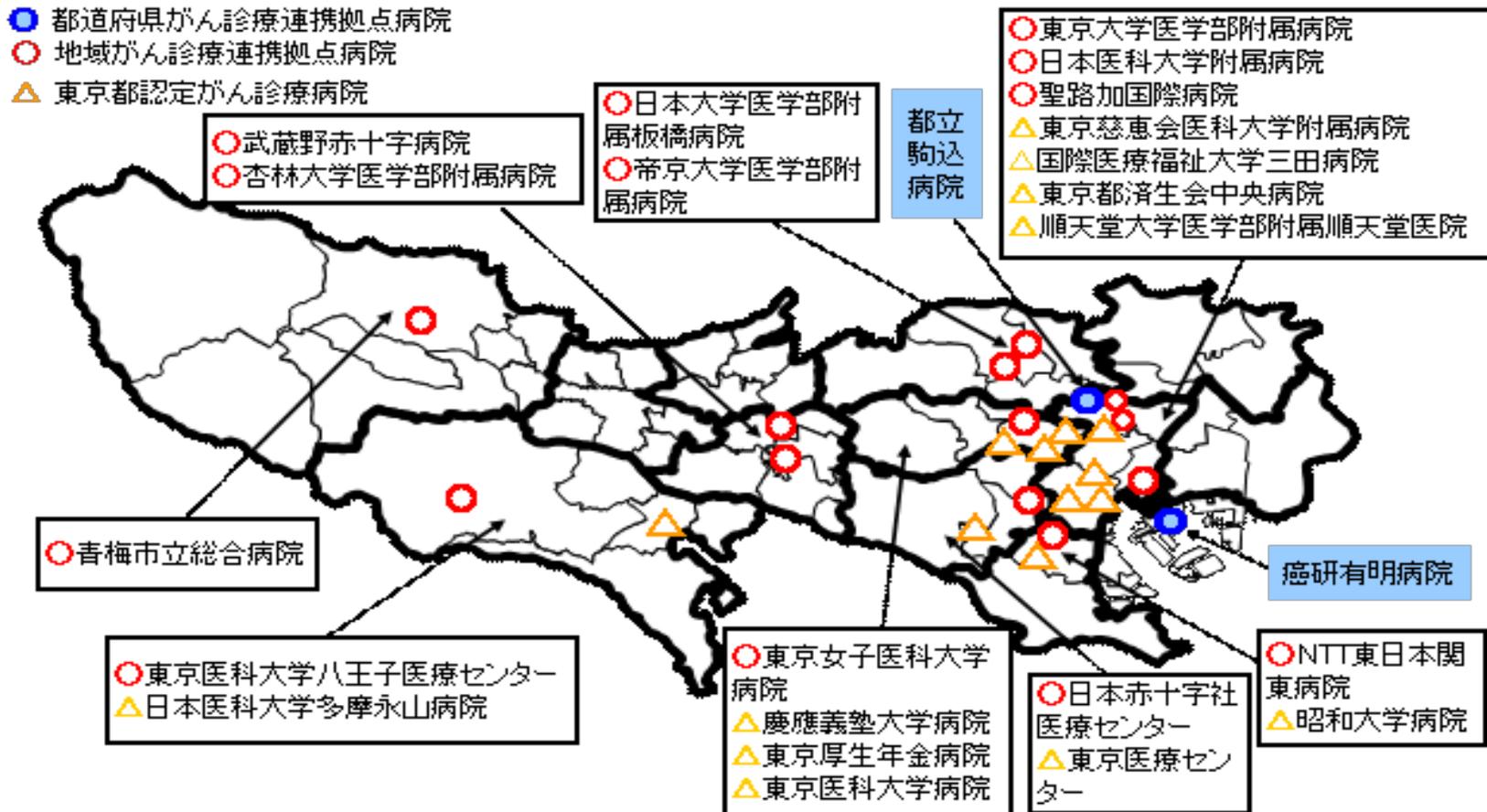
- 当該都道府県におけるがん診療のれん系協力体制及び相談支援の提供体制その他のがん医療に関する情報交換を行うこと
- 当該都道府県内の院内がん登録のデータ分析、評価等を行うこと
- がんの種類ごとに、当該都道府県においてセカンドオピニオンを提示する体制を有するがん診療連携拠点病院を含む医療機関の一覧を作成・共有し、広報すること
- 当該都道府県におけるがん診療連携拠点病院への診療支援を行う医師派遣に係わる調整を行うこと
- 当該都道府県におけるがん診療連携拠点病院が作成している地域連携クリティカルパスの一覧を作成・共有すること。また、我が国に多い癌以外のがんについて、地域連携クリティカルパスを整備することが望ましい。
- 当該都道府県におけるがん診療連携拠点病院が実施するがん医療に携わる医師を対象として緩和ケアに関する研修その他各種研修に関する計画を作成すること。

都内がん診療連携拠点病院(12)

東京都認定がん診療病院(10)

- 都道府県がん診療連携拠点病院
 - 東京都立駒込病院
 - 財団法人癌研究会明病院
- 地域がん診療連携拠点病院
 - 東京大学医学部附属病院
 - 日本医科大学附属病院
 - 聖路加国際病院
 - NTT東日本関東病院
 - 日本赤十字社医療センター
 - 東京女子医科大学病院
 - 日本大学医学部附属板橋病院
 - 青梅市立総合病院
 - 東京医科大学八王子医療センター
 - 郷里大学医学部附属病院
 - 日本赤十字社東京都支部武蔵野赤十字病院
- 東京認定がん診療病院
 - 東京慈恵会医科大学附属病院
 - 国際医療福祉大学三田病院
 - 東京都済生会中央病院
 - 順天堂大学医学部附属順天堂委員
 - 昭和大学病院
 - 独立病勢法人国立病院機構東京医療センター
 - 慶応義塾大学病院
 - 東京厚生年金病院
 - 東京医科大学病院
 - 日本医科大学多摩永山病院

東京都における地域がん診療連携拠点 病院・都認定がん診療病院



東京都がん診療連携協議会

東京都がん診療連携協議会

拠点病院・認定病院・都医師会等

〈専門部会〉

院内がん登録部会

院内がん登録データの収集、分析評価等

研修部会

緩和ケア研修その他各種研修計画の作成等

地域連携
クリティカルパス部会

全都的地域連携クリティカルパスの整備等

相談・情報部会

相談支援対英、情報提供体制の充実等

港区がん連携パス研究会



胃がん・大腸がん手術後
外来経口抗がん剤療法の連携パス

国際医療福祉大学三田病院
東京都済生会中央病院
山王病院

港区がん連携パス研究会(08年6月)

○代表幹事

武藤正樹 (国際医療福祉総合研究所長、
国際医療福祉大学三田病院 教授)

○監事

○幹事(五十音順)

奥田 誠 (山王病院 副院長 外科部長)

大山廉平 (東京都済生会中央病院 常勤顧問)

下山 豊 (東京都済生会中央病院 消化器外科部長)

鈴木重弘 (鈴木胃腸消化器クリニック 院長)

真船健一 (国際医療福祉大学三田病院 副院長)

吉田昌 (国際医療福祉大学三田病院 外科)

○事務局 国際医療福祉総合研究所

港区がん連携アンケート調査

調査時期 2008年1月

回答数30

港区医師会アンケート調査

1. がん患者の診断を行うことがありますか。

- はい いいえ

2. がん治療の経験はありますか。

- はい 以前所属していた施設で経験がある

↓

どのようながん種の患者さまを診ていますか？（複数回答）

- 胃がん 大腸がん 肺がん 乳がん 肝がん
 前立腺がん 子宮がん その他（

3. がん術後フォローアップの病診連携に興味がありますか。

- はい いいえ

- その他（

4. 検査、診断可能な項目を教えてください。（複数回答）

- 一般血液検査の迅速検査

- 可能でない→（何日後に結果が出ますか： 日

- 腫瘍マーカー 内視鏡検査 X線

- エコー CT MRI マ

- その他（

5. どの程度の状態のがん患者なら逆紹介で受け入れることが可能か。

- 状態の良い、術後フォローのみの患者

- 状態の良い、術後補助化学療法患者（経口抗癌剤）

- 状態の良い、術後補助化学療法患者（注射抗癌剤）

- 状態の良い、進行再発がんの化学療法（経口・注射抗

- 終末期の患者（緩和ケアの患者）

- 受け入れられない

- その他（

6. 術後フォローのがん患者を受け入れた場合の不安な点（複数回答）

- 定期的診断・治療

- 緊急時の対応

- 化学療法の副作用への対応

- 患者のメンタルケア

- その他（

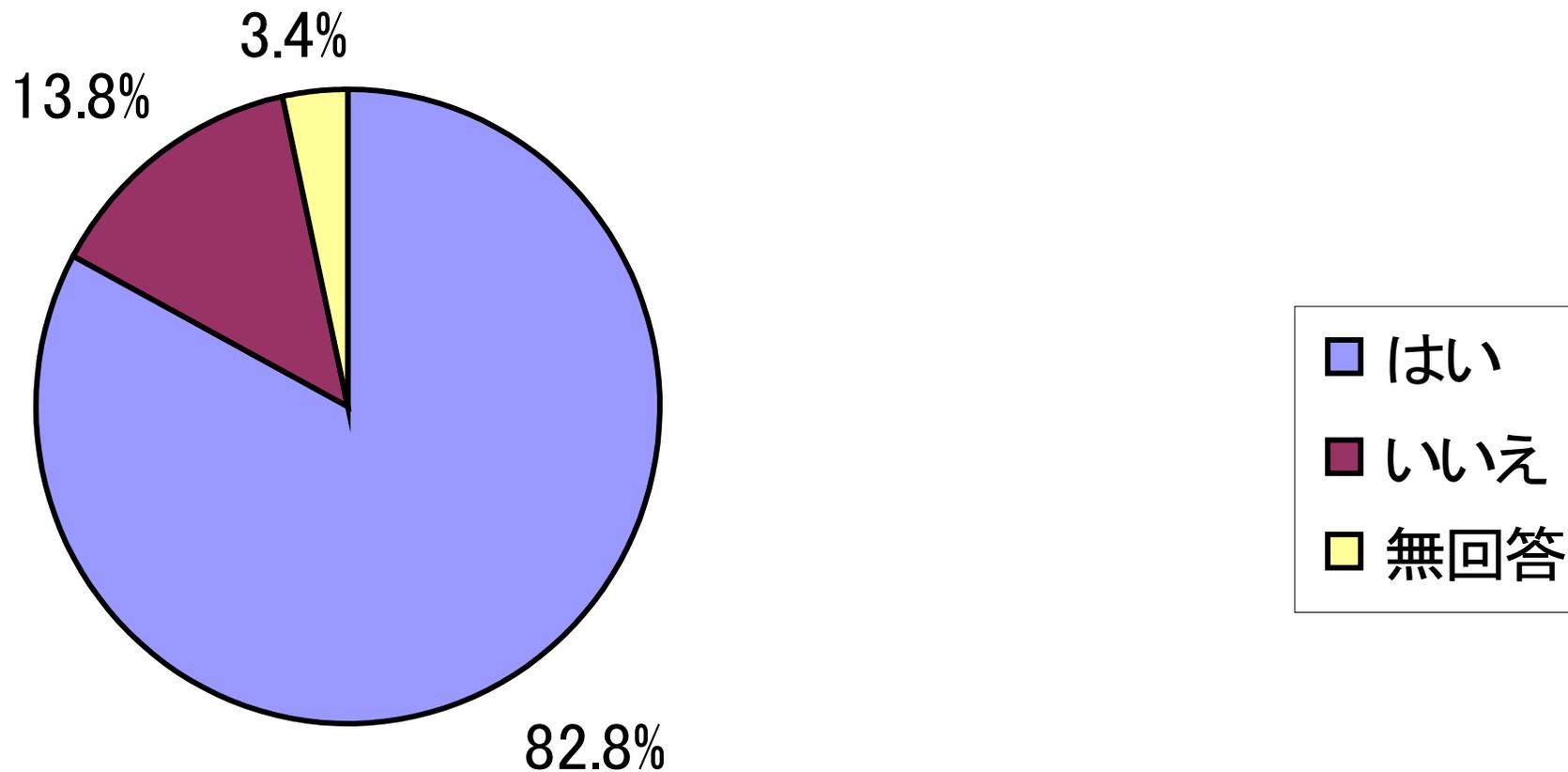
7. 在宅医療、往診を行っていますか。

- はい いいえ

8. 終末期がん患者を在宅で看取ったことがありますか。

- はい いいえ

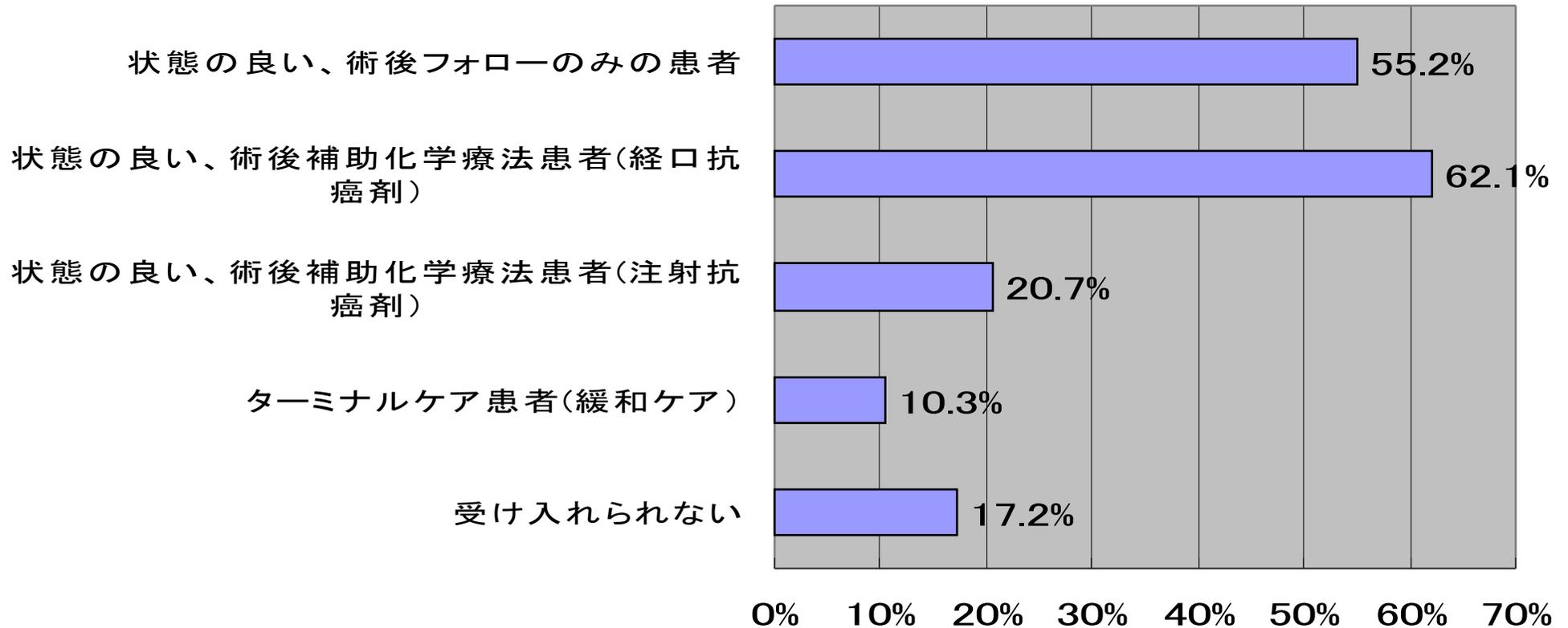
がん術後フォローアップの病診連携に興味がありますか



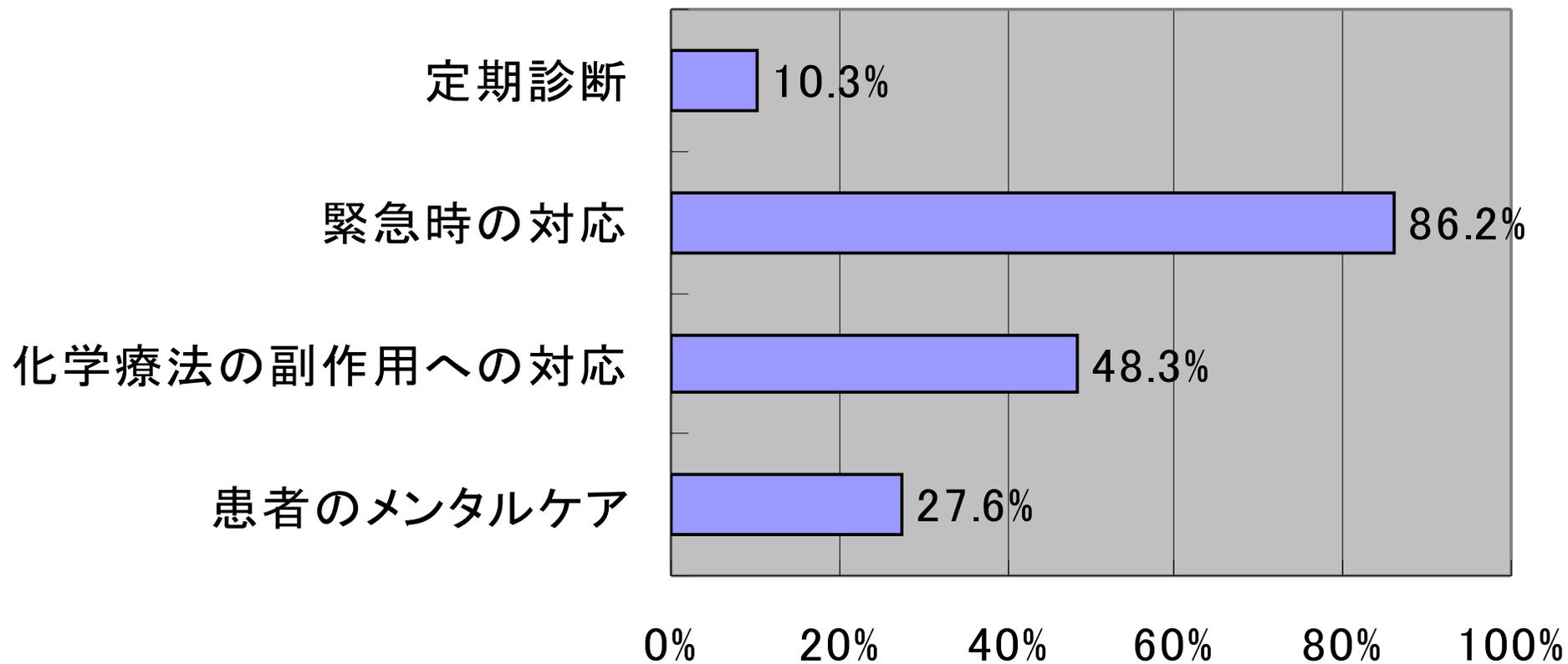
がん術後のフォローに興味を持つ理由

- 「現在すでにがんのフォローアップ中の患者がいる」
- 「消化器外科に携わっていた経験が役立てられるから」
- 「勤務医時代はがん診療に携わっていたから」
- 「以前は一般外科医だったから」
- 「がん専門施設に勤務していたから」
- 「当院から紹介先で手術を受け、状態が安定した患者さんが再び当院への通院を希望された場合に必要だから」
- 「悪化時にはすぐに受け入れていただける体制になればできるだけ自宅で過ごさせてあげたいから」
- 「患者さんのニーズから」
- 「地域医療の一環として」

どんながん患者さんを フォローしたいですか？



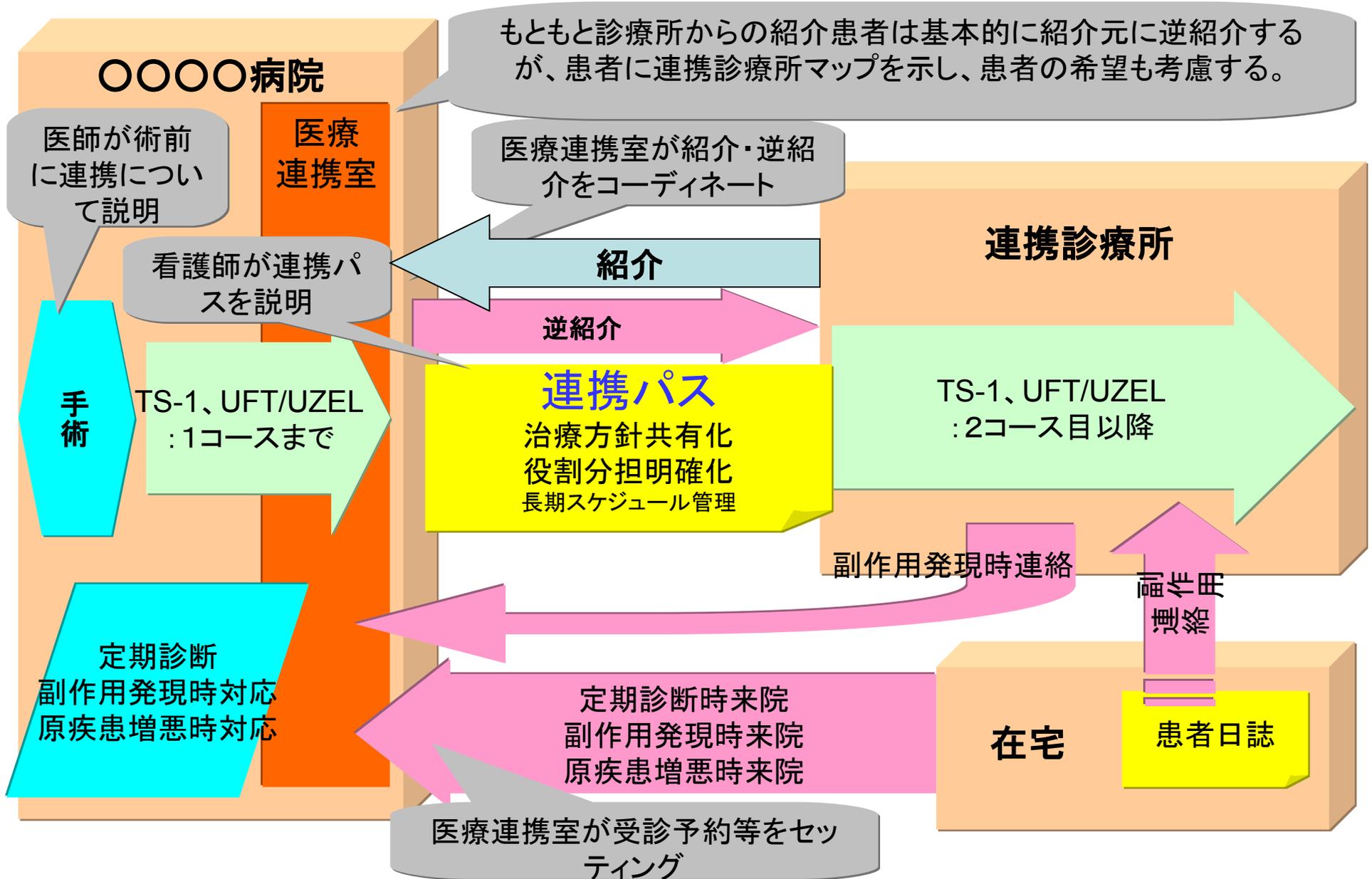
病院に期待すること



まずTS1のがん連携パスから

- TS1内服による病診連携パス
 - 服薬アドヒアランスの問題がある
 - 消化器がんの症例が多い
 - TS1内服の病診連携は応用範囲が広い
 - 胃がん、大腸がん
 - 頭頸部がん、手術不能例
 - 再発乳がん、膵臓がん、非小細胞肺がん、胆道がん

連携における術後治療患者の流れのイメージ（案）



東東京緩和ケアネットワーク 連携パス作成部会

09年2月

東東京緩和ケアネットワーク

- 東京都の東部エリアにおける緩和ケアネットワークの構築と緩和ケア医療の促進を目的
- 代表幹事
 - 林章敏(聖路加国際病院)
- 幹事
 - 区中央部、区東部、区東北部の医師、看護師、薬剤師等29名
- 事務局
 - 財団法人聖路加国際病院緩和ケア科
- 連携パス作成部会

東東京緩和ケアネットワーク 連携パス作成部会

- 第1回作成部会(09年2月19日)
- 作成部会長 太田恵一郎(国際医療福祉大学三田病院)、
顧問 武藤正樹
- 症状別パス作成
- 済生会若草病院外科佐藤靖
郎先生
 - 「一般臨床医にもできる癌疼痛
緩和と病診連携パスについて」
 - フェンタニルパッチの連携パス



東東京緩和ケアネットワーク
連携パス作成部会

パート4 がん地域連携コーディネーター

人材養成がカギ

求められる地域連携コーディネーター

継続診療に関わる連携を調整するヒトと機能が必要

- － 医療者間の連携をコーディネートする
- － 患者の情報を医療関係者に伝える
- － 地域の資源情報を患者に伝える

患者の視点に立った
連携コーディネーターが必要

調整する組織

中心となって医療連携体制の構築に向け調整する組織の役割

- 各医療機関が有する医療機能を患者に適切に情報提供できるよう調整する役割、

患者に情報提供する

- 医療連携体制全体でもって、患者に対し切れ目のない医療サービスの提供に向け調整する役割、

医療関係者を調整する

- 地域の医療従事者の研修など人材養成の中心となる役割、

地域のがん人材研修

という3つの役割を担うことが求められる。

がん地域連携コーディネータの イメージ(案)

- 所属: 拠点病院の地域連携室、相談支援センター
- 職種は看護師、MSW、医療連携室職員等。
- 活動:
 - 外回り: 協力医療機関、訪問看護Stへの訪問・調整
 - 入院時: 退院支援、連携支援
 - がん地域連携クリティカルパスの運用支援
- ニーズ: すべての患者に必要という訳ではない。
紹介状ベースの連携のみでも対応可能な場合もある。
- 周囲医療者からのサポートが必要。

まとめと提言

- がん診療連携拠点病院は5大がんの地域連携クリティカルパスを作成し運用しよう
- 谷水班のがん地域連携クリティカルパスのモデルを参考にしよう
- 都道府県レベルで、がん地域連携クリティカルパスの標準化を行おう
- がん地域連携コーディネーターを養成しよう

谷水班オープンカンファレンス お知らせ

- H20年度厚生労働科学研究補助金(がん臨床研究事業)「全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパスモデルの開発」班 オープンカンファレンス
- テーマ
 - 「がん地域連携クリティカルパス成立への道程」
- 日時
 - 3月8日午後1時—午後4時30分
- 場所
 - 東京女子医科大学 弥生記念講堂
 - 〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

谷水班オープンカンファレンス プログラム

- ■基調報告「がん地域連携クリティカルパスモデル開発の現況」
- ■シンポジウム がん地域連携クリティカルパス成立のための課題
 - 1. がん地域連携クリティカルパスに必要な要件
 - 2. 先進事例にみるネットワーク構築のあり方
 - 3. 医療機能別にみる課題 がん診療連携拠点病院、専門施設の立場から かかりつけ医の立場から コメディカルの立場から
 - 4. 患者の視点からみる医療連携
 - ■各論 5大がんの地域連携クリティカルパスの開発状況
 - ■ディスカッション

地域連携コーディネーター養成講座 ～地域連携クリティカルパスと退院支援～

- 国際医療福祉大学大学院公開講座「乃木坂スクール」
- 4月11日より毎週土曜日18:00より開講(12回シリーズ)
- 日本医療マネジメント学会認定申請中
- 2008年4月より、新たな地域医療計画がスタートしました。新たな地域医療計画では、4疾患(がん、脳卒中、糖尿病、急性心筋梗塞)ごとに医療連携ネットワークを構築することになっています。またその連携ツールとして、地域連携クリティカルパスがあげられています。本講座では、地域連携クリティカルパスや退院支援・在宅医療における医療・介護連携の実践にかかわる諸問題を取り上げ、病院の連携業務に携わる方(医師、看護師、MSW、事務等)、ケアマネージャー、訪看ステーション、包括支援センター、保健所、製薬メーカー、医療関係出版社等の方々とともに学んでいきたいと思ひます。

ご清聴、ありがとうございました



三田病院の消化器センターで外来(木、金)にご紹介を
なお本日の講演資料は武藤正樹のウェブサイトから
ダウンロードできます。